

市立図書館が、大字芝にあつた市文化会館内に設置されたのは、昭和四十一年四月でした。階上に書庫と閲覧室が設けられました。

図書運営委員会ができ、開館早々の図書の購入に協力、行方面では読書会の開催を企画され、昭和四十三年一月から現代文学と古典文学の読書会が毎月一回土曜日午後にかれることになりました。

講師は、現代文学は桜井中学校の奥西先生、古典文学の方は、桜井高校の栢木先生が担当されました。現代文学の講師は二年後、私が引き継ぎましたが、昭和四十八年四月から五十四年三月まで、米田図書館長と小川・栢木両先生が担当ください、同年四月から再び私が担当、今日に至りました。

は十人余りの参加者でした。当初から参加されて今も健在なのは、桜井の西手一子さんです。もう二十数年もたち、会員の顔ぶれもすっかり変わりました。

読書会は、二階の和室八畳の間で行いました。小さな黒板と長机を持ち込んで、同好の集いに入

読書会のあゆみ

さわしく、楽しく、活発な話し合い・学習ができた。時のたつのを忘れず。市中央公民館が市役所の隣りに建設され、昭和五十六年七月、館内に図書室が設置されました。読書会も、参加者に便利な中央公民館の研修室で行うことになりました。地の利を得たことと、市

政だよりに読書会の案内が掲載されることになり、参加者は急増しました。市政だよりに見て飛び入りの方もあり、また都合で読んで来られなかった方のために、課題作品についての資料を準備し、理解と鑑賞を深めることに努めました。

現代文学読書会講師 阪本 伊作

読書会の講師も参画しての運営委員会（米田清治委員長）は定期的に開催、新刊図書の調査や貸出図書の実態を調べて図書を購入、市民のニーズに応えるべく協力しています。

設に伴い、芝の図書館はなくなり、昭和六十三年四月から中央公民館図書室と統合、新しい市立図書館が発足しました。広い閲覧室のない状態のない閲覧室の中から、で、図書の貸出業務を開始、平成二年度末の貸出冊数は五万八千冊、平成三年度末では六万三千冊と市民の利用が年々増加

本市出身の保田與重郎さんの「日本の橋」は今年も読みます。三度目です。毎年、秋の日曜の一日、有志の方を案内して文学作品ゆかりの地や旧跡を訪ねました。

さて、現在の市立図書館にはじゅうぶんな閲覧室のない状態です。市民の文化活動の殿堂として、研修と憩いの広場としての、県下の他市にひけを取らない独立図書館の一日も早い建設を切望します。市民の熱い願いです。

現代文学読書会

毎月第三土曜日午後一時三十分から開催しています。

現代文学ファンの方々や、講師先生の熱心なご指導・助言のもとに、毎回新たな感動が生まれる楽しい会です。